

私たちは忘れない

—ワークショップ、映画を通して

難民・避難民問題を我が事として考える



侵攻を逃れ避難する車内の様子
(映画のワンシーンより)

ワークショップや映画鑑賞を通じて、難民や避難民の問題、そして平和について一緒に考えてみませんか？

第19回難民映画祭(2024)で上映された「永遠の故郷ウクライナを逃れて」を鑑賞し、上映後にはウクライナから避難してきた方のお話を聞きます。

- ◆ 日時：①10月 4日(土) 午後2時～午後4時
②10月11日(土) 午後2時～午後4時30分
全2回
- ◆ 【プログラム】

回	日にち	テーマ	講師
1	10月4日	もし、突然わたしが難民になったら —講義とワークショップを通して考える—	天沼 耕平 氏 (国連 UNHCR 協会職員)
2	10月11日	私たちは忘れない—映画鑑賞と当事者の声を聞く 上映作品「永遠の故郷ウクライナを逃れて」 トーク：知ってほしい私の想い	スカリアーニ エミリア氏 (ウクライナ避難民当事者) 通訳 別當 紀人氏 (難民支援団体 Nadiya 代表)

- ◆ 対象：市内在住、在勤、在学者優先
- ◆ 定員：①20人、②40人(申込順 2回参加の方優先)
- ◆ 申込：9月4日(木)10時から、電話か申込フォームで保谷駅前公民館へ(申込順)
- ◆ 申込みフォーム

【第1回、第2回申込み】

【第2回のみ申込み】



裏面に講師・話し手・上映映画紹介

【講師・話し手・上映映画紹介】

◆第1回（10月4日）

● 天沼 耕平氏（国連 UNHCR 協会職員 広報、教育担当）

東京学芸大学教育学部卒業後、淑徳中学高等学校において3年間社会科教員として勤務。その後、児童養護施設の指導員や開発系 NGO の職員などの経験に加え、熊本県の農業法人において農業にも携わる。2012年に国連 UNHCR 協会に入職し、「国連難民支援プロジェクト」関東エエリアマネージャーを経て、現在は広報啓発事業／難民高等教育プログラム担当。



◆第2回（10月11日）

● 上映映画「永遠の故郷ウクライナを逃れて（原題：In the Rearview）」

監督：Maciek Hamela / ポーランド、フランス、ウクライナ / 2023年 / 84分 / ドキュメンタリー

ウクライナの市民が恐怖の紛争から逃れる避難の旅路を追った観察記録である。監督は自ら車を運転し、地雷原や軍事検問所を通過しながら、人々の移動を手助けする。カメラは、車のバックミラーにうつる表情、後部座席で繰り広げられる会話を記録しながら、戦時下におかれた人たちの思いを映し出す。ウクライナからポーランドまでの何万キロもの道中で、車は、待合室、病院、避難所、そして、偶然に乗り合わせた同胞の告白の場となったのである。



● スカリアーニ エミリア氏からのメッセージ

2年前にウクライナのキーウから日本に来ました。故郷はウクライナ北部にある、ノーヴホロドシーヴェルシキです。日本に来てコスプレや旅行をするほか、Jロックがきっかけでベースを弾き始めました。将来、大学に入学したら、通訳のような言語に関わる仕事をしたいと思います。



●（通訳）^{べつとう} 別當 ^{のりと} 紀人 氏（難民支援団体 Nadiya 代表）

2024年3月に閉店したウクライナ避難民運営食堂 Nadiya 代表。ウクライナ避難民支援活動の過程で避難民の日本での就労に様々な困難・課題があることを実感し、ウクライナ避難民の就労支援として仲間と「Nadiya」を立ち上げる。



難民映画祭
REFUGEE FILM FESTIVAL

PARTNERS